



人権擁護と地域支援～障害者が地域でいきいきと暮らすために～

研究所員 松浦和代

こんな地域があったらいいな、こんな町に住みたいなという夢を、誰しも抱いているでしょう。

世界が示すSDGs目標11には、次のような言葉で表されています。「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」（Make cities and human settlements inclusive, safe, resilient and sustainable.）この目標は、言うまでもなく、全ての人にとってということです。各地で起きる自然災害の折、障害のある人々の避難誘導や避難所での配慮が十分ではなかったという指摘があり、早急な改善が必要です。また、その実現のためにも、障害のある人々が、日常的に地域交流できるよう、合理的配慮と環境の整備が今こそ必要ではないでしょうか。

人はオギャーと産まれた瞬間からひとりの人間として尊重されます。1989年11月20日、「世界中の子どもたちに権利を」という願いを受けて、国連で「児童の権利に関する条約」（子どもの権利条約）が採択され、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」が大きな柱とされました。障害のある子どもたちが、こうした権利を確実に行使することためには、親や教師、地域の大人など身近な大人の正しい理解と適切なかわりが必要でです。

障害者が地域で共に暮らすために、学校や各事業所はもちろんのこと、地域活動においても、無理なく積極的に参加できるよう、合理的配慮の提供と環境の整備を進めなければなりません。「放課後等デイサービスガイドライン」にも、「地域交流の機会の提供」は基本活動として次のように示されています。

「障害があるがゆえに子どもの社会生活や経験の範囲が制限されてしまわないように、子どもの社会経験の幅を広げていく。他の社会福祉事業や地域において放課後に行われている多様な学習・体験・交流活動等との連携、ボランティアの受け入れ等により、積極的に地域との交流を図っていく。」このように示されており、スマートキッズの教室においても、例えば、地域の音楽会への参加、博物館の見学、最寄り駅の校内への絵画の展示などを行っています。こうした地域交流が、各地に広がっていくように祈りたいと思います。

私の住む地域では、何十年も続いている地域運動会があり、幼児から高齢者まで、さまざまな人々が活動に参加しています。壁があっても、知恵を合わせて、工夫して乗り越え、決してやめたり、できないと言ったりしない、その姿勢を子どもたちは見ていて、自分も何かしようと考えるようになります。大人と一緒に活動し、様々な世代の大人が力を合わせてカッコよく活動する場面を見るから「大人ってすごいな！」と、感動と尊敬が生まれ自分もカッコよく出来るようになりたいと思う気持ちが芽生えるのだと思います。実際、卒業生やボランティアの大学生の参加も増えています。

人と人が接する機会が減り、子どもが家庭の中で、どのような状況にあるのか把握しにくくなっていると思います。町会行事に家族で参加して、親子共に覚えてもらうことは大切です。こうしたことが、入学式や卒業式で出会えば「おめでとう」、運動会や学芸会では、「りっぱだね」「おおきくなったね」というかわりにつながります。子どもからすると、自分のことをよく分かっていてくれる、ずっと見守っていてくれる人に囲まれていることは、安心感につながります。

合理的配慮とは、障害者が社会的障壁の除去を必要とする意思表示が出た場合に、その実施に伴う負担が過重でない限り、必要かつ合理的に対応することを言います。特に大切なことは、合理的配慮の方法は、一つではないということです。申請どおりの対応が難しい場合でも、建設的な対話を通して、柔軟に対応することが大切です。この建設的な対話を積極的にするということが、今最も重要だと考えます。

これからも、障害のある子どもたちが、地域で楽しく安心して暮らせるよう、理解の輪を広げ、実践していきたいと思います。



<プロフィール> 主任児童委員 松浦和代

子どもたちの健やかな成長は、みんなの願いです。私は、これまで、学校との地域、関係機関の絆を深めながら、子どもの発達を支援し、一人一人の発達・成長の保障、情緒の安定、生命の安全を守る活動に携わってまいりました。そして、子どもの貧困や非行などの背景、児童虐待とその影響を理解し、子どもの権利擁護のための活動に関わってまいりました。また、放課後子ども教室や子育てサロンなどにも携わり、子育て相談とともに、「遊び」の大切さの啓発、「遊び」の質の向上に努めてまいりました。

今、子育て家庭を取り巻く社会的状況は、大変、厳しいものがあり、社会全体の理解と協力を必要としています。多様な子育て家庭のニーズを汲み取り、個に応じた子育て支援のできる社会になるよう、これからも皆様と共に活動を続けていきたいと思っています。